

「学生による授業評価」のまとめ2017年度 第1・第2クォーター刊行にあたって

2017年11月

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会  
委員長 三浦英俊

南山大学では、1997年度から全学で「学生による授業評価」を実施して今日に至っている。この授業評価の目的は、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育を向上させることにある。

2017年度は、総合政策学部が名古屋キャンパスに移転してキャンパス統合が完成し、また、クォーター制が開始された。クォーター制によって大部分の授業は8週間を1クォーターとする4学期制のもとで行うこととなり、授業評価は各クォーターに1回実施されることとなった。この冊子は第1および第2クォーターのまとめとなる。

2017年度より授業評価は、これまでのマークシート方式から、ウェブ入力方式へ変更された。また、質問項目の内容と質問数について見直しを行った。

授業評価を行う対象科目は、これまで同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず各クォーター1教員1科目となっている。評価対象科目の選出ルール等の詳細についてはウェブページ(南山大学ホーム>日本語トップ>在学生の皆様>授業改善への取組(「学生による授業評価」))に掲載されているのでご覧いただきたい。また、授業評価結果の概要についても同じウェブページで開示されている。

## 1 授業評価の実施方法

### ① 対象科目

各クォーターについて各教員につき1科目が選択され、合計698科目が授業評価の対象となった。

### ② 質問項目

2017年度に質問項目の内容について見直しを行い、質問項目数を20から14に削減した。質問項目は以下のとおりである。設問1と2は、学生の授業参加を問う項目、設問3から14は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。このほか自由記述の質問項目を設けている。

〈「学生による授業評価」質問項目〉

設問1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。

設問2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。

設問3：授業の開始と終了の時間は守られていましたか。

設問4：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。

設問5：この授業の到達目標を理解することができましたか。

設問6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力が付いてきていると思いますか。

設問7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。

設問8：教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。

設問9：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。

設問10：私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていましたか。

設問11：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。

設問12：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。

設問13：この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったと感じますか。

設問14：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

## ③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。学生は、教員の指示により授業時間内に各自のスマートフォン等を使ってPORTAにログインして回答する。回答は匿名化して処理される。授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅PC等を利用して回答することが可能である。

## ④ 実施・集計日程

以下の日程で実施集計を行っている。別途、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の分析・検討を行っている。

	第1クォーター	第2クォーター
授業評価の実施	2017年5月15日～ 2017年5月31日	2017年7月12日～ 2017年7月28日
集計作業	2017年6月1日～ 2017年6月5日	2017年7月31日～ 2017年8月2日
教員への集計結果の通知	2017年6月6日	2017年8月3日
教員からの自己点検・評価報告書提出	2017年6月6日～ 2017年6月21日	2017年8月3日～ 2017年8月22日
「『学生による授業評価』のまとめ」の発行	2017年11月	2017年11月

2 集計結果の概要

① 実施率について

2016 年度までは教員がマークシートを配布して回収する方法であったが、2017 年度よりウェブ入力方式へ変更されたため、授業評価を実施した科目の割合を表す実施率の数値の実質的な意味はなくなったといえるだろう。

② 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合である(表1)。第1クォーターは、2016年度と同程度の60%程度であったが、第2クォーターは47%とかなり低下した。「ウェブ入力方式への変更」や「クォーター制の導入」など複数の要因が影響していると考えられる。

③ 報告書提出について

授業評価を行ったあとに教員より報告書を提出していただいている。2017年度第1クォーターは1科目(全体の0.24%)報告書非提出であった。第2クォーターは対象の全教員から報告書の提出があった。

④ 評定平均値について

今年度から質問項目数が20から14に削減されて、いくつか質問内容も変更されている。したがってすべての項目で前年度までの数値の比較を行うことは難しい。「全体としての満足度」は第1・第2クォーターともに4.1程度となっており、0.2程度数値が低下した。項目3から14までの評定平均値の推移(表3)を見ると、やはり0.2程度低下している。これは、②回答率の低下の要因に加え、質問項目を変更したことも影響しているものと考えられる。「授業への取り組み・自主的な学習の実行」と「到達目標の達成」は数値が4.0を下回っており、引き続きこれらについて改善する必要がある。

表2 項目3から14の評定平均値(2013春学期～2017第2クォーター)

年度・学期	2013春	2013秋	2014春	2014秋	2015春	2015秋	2016春	2016秋	2017Q1	2017Q2
全体	4.38	4.40	4.36	4.41	4.39	4.41	4.42	4.41	4.25	4.28
名古屋	4.41	4.42	4.37	4.44	4.38	4.41	4.41	4.41	-	-
瀬戸	4.29	4.34	4.33	4.33	4.46	4.45	4.45	4.45	-	-

※2013春～2016秋は項目4から18の評定平均値

表3 項目ごとの評定平均値(2013春学期～2017第2クォーター)

	設問項目 (2017Q1～)(※1)	設問項目 (～2016秋)	2013	2013	2014	2014	2015	2015	2016	2016	2017	2017
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	Q1	Q2
1	授業への興味	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.96	4.01
	-	授業への出席	4.26	4.20	4.37	4.24	4.35	4.28	4.34	4.28	-	-
2	授業への取り組み・自主的な学習の実行	授業への取り組み	4.21	4.16	4.24	4.23	4.26	4.22	4.28	4.23	3.86	3.91
		自主的な学習の実行	3.26	3.27	3.29	3.37	3.38	3.43	3.46	3.46		
3	授業時間の厳守	授業時間の厳守	4.63	4.59	4.64	4.62	4.64	4.60	4.65	4.62	4.61	4.60
4	構成や速度が適切	構成や速度が適切	4.50	4.50	4.48	4.50	4.51	4.52	4.53	4.51	4.33	4.38
5	到達目標の理解	到達目標の明示(※2)	4.44	4.45	4.37	4.43	4.40	4.42	4.43	4.42	3.97	4.06
		シラバスの有用性	4.34	4.36	4.30	4.37	4.36	4.38	4.39	4.38		
6	到達目標の達成(※3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.87	3.94
7	教員の姿勢	教員の姿勢	4.58	4.60	4.58	4.60	4.58	4.59	4.60	4.58	4.47	4.45
8	教員の声	教員の声	4.59	4.61	4.59	4.61	4.58	4.58	4.60	4.58	4.48	4.45
		理解度への配慮・板書、配付資料	4.33	4.38	4.32	4.38	4.35	4.38	4.37	4.38	4.27	4.31
9	理解度への配慮・板書、配付資料	4.34	4.38	4.34	4.39	4.37	4.40	4.40	4.39			
10	妨げ行為への対処	妨げ行為への対処	4.28	4.28	4.26	4.29	4.30	4.30	4.34	4.33	4.29	4.27
11	意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導	意欲を引き出す工夫	4.17	4.21	4.16	4.24	4.20	4.26	4.24	4.25	4.10	4.14
		自主的な学習の指導	4.22	4.26	4.20	4.29	4.25	4.31	4.29	4.30		
12	質問や相談の機会	質問や相談の機会	4.30	4.33	4.30	4.36	4.33	4.38	4.37	4.37	4.19	4.25
13	知識・理解の深まり	知識・理解の深まり	4.39	4.42	4.37	4.42	4.40	4.42	4.43	4.40	4.23	4.26
		内容へのさらなる興味	4.22	4.26	4.20	4.28	4.25	4.29	4.27	4.27		
14	全体としての満足度	全体としての満足度	4.35	4.38	4.31	4.38	4.35	4.38	4.38	4.37	4.16	4.19

※1 2017年度より、一部設問項目を新設・統合した

※2 2014年度より学習目標→到達目標

※3 2014年度より試験運用していた設問のため、全体集計を行っていない

表1 回答率(2013春学期～2017第2クォーター)

	2013春	2013秋	2014春	2014秋	2015春	2015秋	2016春	2016秋	2017Q1	2017Q2
全体	65.90%	60.60%	67.01%	60.77%	66.81%	61.04%	65.28%	61.20%	62.44%	47.37%
30名以下	88.40%	84.94%	88.71%	83.27%	88.89%	85.60%	89.60%	84.94%	79.95%	69.47%
31～60名	83.20%	79.61%	84.14%	80.40%	83.34%	82.19%	84.67%	80.62%	69.06%	57.20%
61～120名	68.50%	60.60%	70.52%	63.80%	71.89%	65.67%	69.70%	61.58%	63.43%	49.50%
121～240名	59.00%	55.24%	62.25%	56.58%	62.08%	52.93%	60.41%	56.33%	60.14%	45.15%
241名以上	50.70%	42.25%	50.02%	42.89%	52.05%	45.15%	46.86%	45.00%	56.69%	38.28%

### 3 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところが、教員ごとの結果である。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示する。

それぞれ、次の内容となっている。

- ① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など**
- ② **2種類のレーダーチャート** 右下の図は回答者全員の集計結果であり、左上の図は学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目2の評定値が3.0以上の学生だけに絞って集計した結果である。
- ③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果をもとに、結果の自己点検・評価や、次学期・クォーターに向けた改善策などを書いた報告書となっている。

### 4 授業評価結果の活用

この授業評価は、授業担当者が自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を学生から収集するために行われている。各授業担当者は、評価項目の数値や自由記述欄に書かれた内容を基礎として、自分の授業について点検・評価を行って改善策を検討する。授業評価の実施、点検および評価、改善策の検討と実施を1つのサイクルとして、授業を向上させることができれば幸いである。